

持続可能な地球環境への貢献

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック 気候変動の緩和と適応

検索



リンテックグループの考え

事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる気候変動などに適応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは「リンテックグループ活動指針」にある「品質・環境・事業継続方針」にて「基本方針」を掲げています。具体的な活動を実践するために「品質方針」「環境方針」「事業継続方針」を定め、それぞれに「行動指針」を示しています。気候変動の緩和と適応については、環境方針の行動指針に基づき、研究部門では環境対応製品の開発、生産部門では大気排出VOC*1量の削減、廃棄物発生量の削減、エネルギー（電気・燃料）使用量の削減、CO₂排出量の削減などに取り組んでいます。

環境マネジメントシステム

リンテックグループは「品質・環境・事業継続方針」に基づき、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。ISO 14001のグローバル統合では、2020年度に更新審査を受け、審査登録証issue14（発行番号14）を入手しました。国内12登録事業所、海外10登録事業所で、情報共有を進めています。第三者検証では、電力購入量、用水量、CO₂排出量、廃棄物発生量および大気排出VOC量の検証を受け、修正すべき重要な事項はありませんでした。生物多様性の保全では、植樹活動や海岸などの清掃活動に継続して取り組んでいます。海洋プラスチックごみの削減に向けてCLOMA*2にも加盟し、一企業市民として環境配慮製品の提案と啓発にも取り組んでいます。

気候変動の緩和に向けた取り組み

国内リンテックグループ*3における2021年度のエネルギー総使用量（原油換算：省エネルギー法対象範囲）は、生産量の増加により前年度から5.2%増加しました。エネルギー原単位は0.306kWh/tになりました。また、2021年度のCO₂排出量は159千tとなり、2020年度の148千tよりも増加しました。2022年度は、低炭素排出の電力使用にも取り組み、2021年度原単位で、CO₂排出量は1%、電力使用量は1%の改善を目指しています。

中期目標(2020年度～2022年度)と実績

2021年度は新設備が立ち上がり生産も増大しましたが、エネルギー原単位は前年並みでした。

用水使用量は、多品種小ロット対応に伴う洗浄水使用量が増加しました。また、水不足による生産調整を行ったため用水原単位は厳しい状況でしたが、前年比で1.2%の改善ができました。品種替え時の用水再利用を検討し、引き続き削減に取り組んでいきます。廃棄物発生量は、歩留まり向上への改善と分別の徹底により、発生量削減を目指します。また、廃棄物の有効活用を図り、最終処分量の改善を目指します。

2021年度は2030年度を最終年度とする長期ビジョンを構成する中期経営計画の初年度となり、事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献することを長期ビジョンの基本姿勢として、取り組んでいます。

対象範囲：リンテック(株)

項目	目標	2021年度実績 (前年度からの削減率)
CO ₂ 排出量	対前年度原単位で1%削減	0.02%増加 目標未達
電力使用量	対前年度原単位で1%削減	0.82%増加 目標未達
用水使用量	対前年度原単位で1%削減 (三島工場・熊谷工場の洋紙生産)	1.2%改善 目標達成
廃棄物発生量	対前年度発生量から0.1%削減	5.9%増加 目標未達

製造における取り組み

国内リンテックグループ全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500kWh以上になるため、省エネルギー法に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%以上、電気需要平準化原単位1%以上改善することが求められています。2021年度は、生産設備やボイラーの効率運転、空調管理、照明のLED化推進などの省エネルギー活動に取り組みました。なお、省エネルギーの促進により、一部の事業所では、特定事業者の指定区分変更や指定解除の可能性が出てきています。

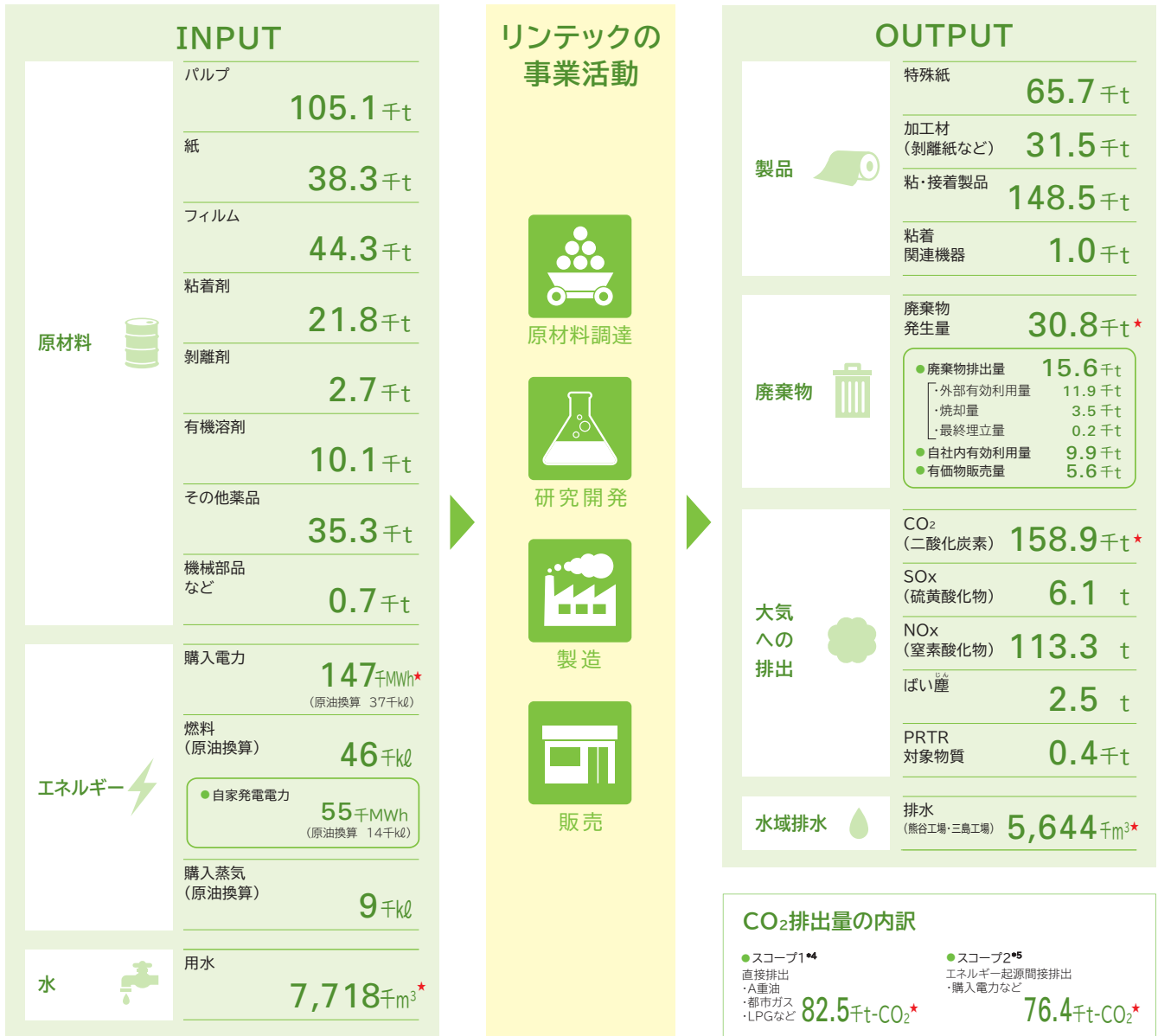
*1 VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

*2 CLOMA：Clean Ocean Material Allianceの略称。海洋プラスチックごみの削減に向けてプラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するためのプラットフォーム。経済産業省が主導。

*3 国内リンテックグループ：→P 17に記載。

マテリアルフロー

対象範囲：リンテック(株)の本社、10生産拠点、研究所、東京リンテック加工(株)



物流における取り組み

2021年度の輸送量は前年度より11.0%(9,845トンキロ*6)増加し、それに伴いCO₂排出量も8.5%(823t-CO₂)増加しました。過去5年度間のエネルギーの使用に係る平均原単位は、約1.1%減少となりました。また、国土交通省によるホワイト物流推進運動に対して自主行動宣言を行いました。

今後はさらに物流会社、関連会社、各工場と連携を強化していくことで、輸送効率の最適化やモーダルシフトに取り組んでいきます。

TCFD提言への対応

持続可能な事業活動を継続するため、環境委員会の下に「TCFD分科会」を新設して、気候関連リスクと機会の特定を進めてきました。特にリスク・機会の影響評価においては、気候変動の物理影響が顕著な「4℃シナリオ」とパリ協定の実現に向けた気候変動対策が加速する「2℃未満シナリオ」を想定し、事業影響の大きいリスクと機会の特定を進めてきました。2022年6月にTCFD提言に沿った「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」についてウェブ開示を行いました。2022年度は組織横断的に新メンバーを加え、特定した「リスク・機会」について深掘りを進めていく予定です。

*4 スコープ1：自社で購入した燃料の使用に伴い直接排出されたCO₂などの温室効果ガス排出量のこと。液化天然ガス(LNG)、プロパンガス(LPG)、都市ガス、灯油、軽油、ガソリンなど、ガスや液体燃料が対象。
*5 スコープ2：自社で購入した電力や蒸気などを他社でつくる際に排出されるCO₂などの温室効果ガス排出量のこと。

*6 トンキロ：貨物の輸送量を表す単位で、1回ごとの貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

持続可能な地球環境への貢献

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック 海外グループ環境データ 検索



リンテックグループの考え

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

循環型社会の実現

限りある資源をリサイクルなどで効率的に活用した循環型社会の実現に向けて、廃棄物の3R(リデュース(ごみの減量)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化))に継続的に取り組むとともに、各工場、営業店所に電子マニフェストの導入推進、廃棄物の分類徹底を行い、事業活動で発生する廃棄物については、発生量の削減に努めるとともに、有効利用率向上を推進し、埋立処分量削減に努めます。

サーキュラーエコノミー

持続可能な経済と環境を実現するため、製品や生産から廃棄物や汚染を出さない製品設計を行い、リサイクル資源を有効活用して新たな資源利用を抑え、製品の生産から利用、リサイクルに至るまで資源が循環するサーキュラーエコノミーへの移行を推進します。また2022年4月、海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化などに対応したプラスチック新法(プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律)が施行されたことを踏まえ、プラスチックの「設計・製造」段階での使用量削減、排出量削減、再資源化への取り組みを進めていきます。

持続可能な原材料調達

リンテックでは、原材料調達基本方針に基づいて、持続可能な原材料調達を進めています。お取引先にはアンケートを通して安定供給の確認を行っています。

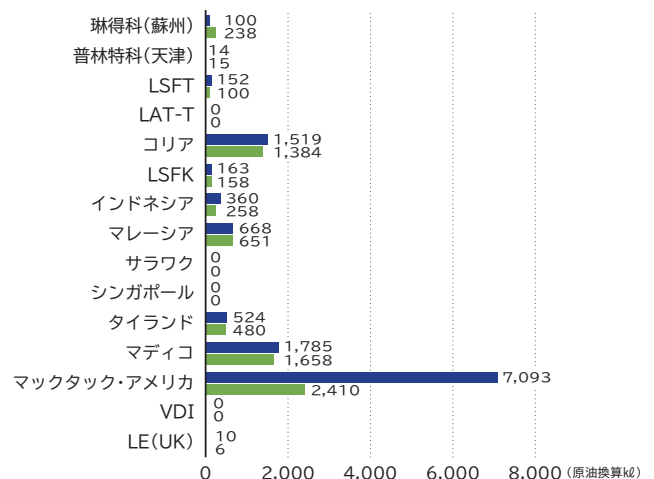
2021年度は、日本国内で購入している原材料のお取引先118社(150部署)に対して、BCP*3やサービスの項目を含んだ自己評価アンケートを依頼し、109社(141部署)から回答をいただきました。

また、約3,700品種の原材料について、生産に関する情報を調査し整理しています。インシデント発生時には、調査結果を使用して影響が懸念される原材料を速やかに特定し、原材料の調達が途切れないように努めています。

海外グループ会社の環境データ

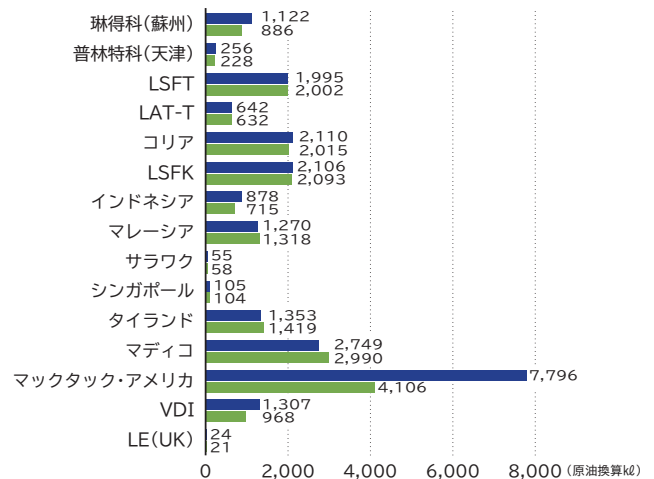
海外グループ会社15社における2021年の環境データは以下になります。

- スコープ1*1
- 2021年データ(集計期間:2021年1月1日から12月31日まで)
- 2020年データ(集計期間:2020年1月1日から12月31日まで)



注) LSFT:リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(台湾)社 LAT-T:リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社 LSFK:リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(韓国)社 LE(UK):リンテック・ヨーロッパ(UK)社

- スコープ2*2
- 2021年データ(集計期間:2021年1月1日から12月31日まで)
- 2020年データ(集計期間:2020年1月1日から12月31日まで)



*1 スコープ1: →P 19に記載。
*2 スコープ2: →P 19に記載。

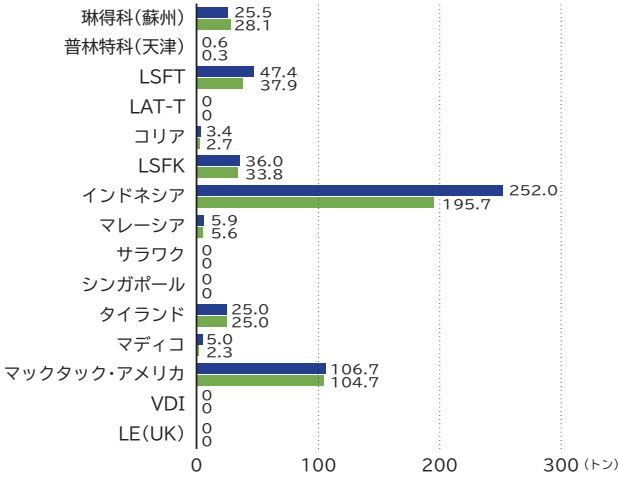
*3 BCP: →P 31に記載。

WEB より詳しい情報はCSRサイトへ

リンテック 廃棄物の削減 検索 リンテック 用水 検索

■ VOC排出量

■ 2021年データ(集計期間:2021年1月1日から12月31日まで)
■ 2020年データ(集計期間:2020年1月1日から12月31日まで)



■ 用水使用量と排水量の削減

リンテックにおける2021年度の用水使用量は7,718千m³でした。このうち約87%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。2021年度は原単位で50.43m³/tとなり、目標の対前年度1%削減は達成できました。2022年度は原単位比で対前年度1%削減を目指しています。目標の達成に向け、各工程における用水量と排水量の削減および漏水対策に継続して取り組んでいきます。抄紙機を有する工場では、水質汚濁防止法に加え、愛媛県赤之井川流域の三島工場は、瀬戸内海環境保全特別措置法(瀬戸内法)に対応し、また、埼玉県荒川流域の熊谷工場は、埼玉県生活環境保全条例などに対応し、それぞれ地域の排水基準を満たしています。

■ 用水使用量と排水量

種別	2021年度(千m ³)
用水合計(水源別に集計)	7,718
●水道水	509
●工業用水	3,715
●地下水	3,494
排水	6,630

※ 用水は、水道水、工業用水、地下水の合計です。

■ ゼロエミッション*4に向けた取り組み

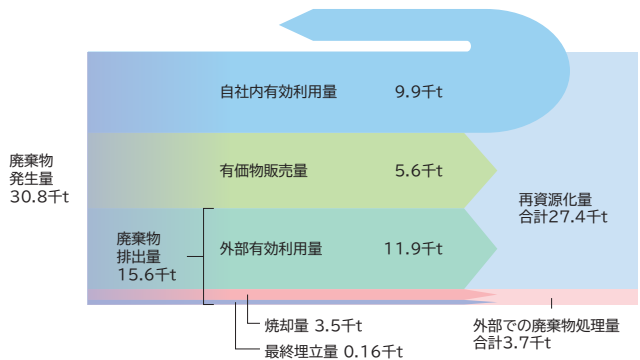
リンテックにおける2021年度の有価物を含めた廃棄物発生量は30.8千tでした。有価物および内部・外部で有効利用された量は27.4千tで全体の89%が再資源化されています。

焼却後に残る焼却灰は、コンクリートの原材料などとして有効利用されています。

2021年度の最終埋立比率*5は0.51%となり、最終埋立比率1.0%以下を達成しました。2020年度(0.54%)に比べ、0.03%減少しました。

■ 廃棄物の流れ(2021年度)

対象範囲:リンテック(株)の本社、10生産拠点、研究所、東京リンテック加工(株)



■ 生物多様性の保全

リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に「生物多様性の保全」を掲げ、国内外において、生物多様性の保全活動に取り組んでいます。

国内工場の龍野工場では、保全種リストの「アサノハカエデ」と、工場緑化目的の「ベニカナメ」の維持管理・観察を行っています。千葉工場では、今年はじめて、倉庫西側の壁一面に「植物のカーテン」を実施し、身近な地球温暖化対策を進めています。



アサノハカエデ

抄紙機がある工場の河川流域への排水水質では、地域ごとの排水基準を満たしています。その水域および関連生息地が、国内の保護地域に指定されているかを把握しています。

*4 ゼロエミッション:リンテックの基準は、最終埋立比率が1.0%以下。

*5 最終埋立比率:次式で求められる数値。最終埋立比率=最終埋立量/廃棄物発生量×100